

まちづくり応援団 える

## 木の匂いが香る 鹿野総合支所新庁舎、オープン!

### 令

和7年もーカ月が過ぎましたね。毎日、

寒さの厳しい日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。今月号の「えーる!」は、12月23日に新庁舎で業務を開始した周南市役所鹿野総合支所についてご紹介します。

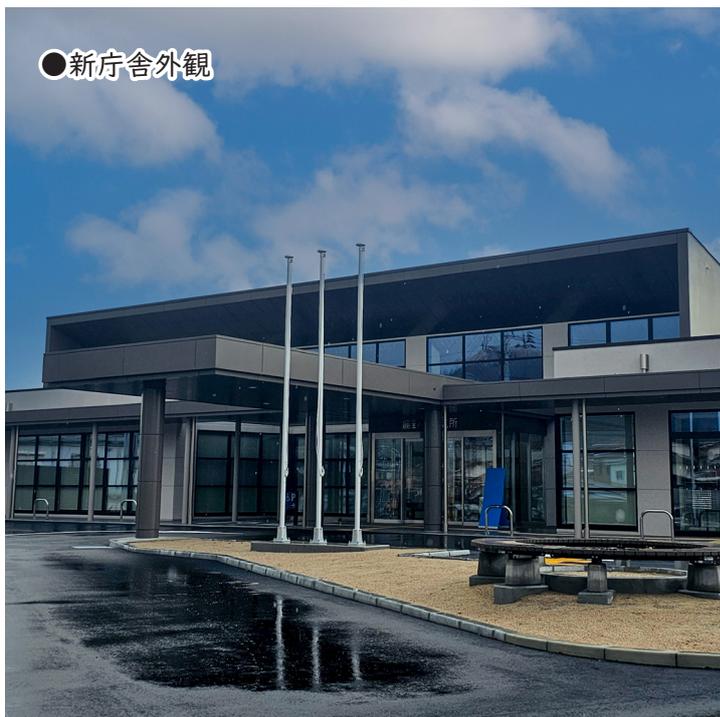
昭和46年に建設された旧庁舎は、長い年月を経て老朽化など多くの課題を抱えており、庁舎の建て替えが進められていましたが、ついに完成した新庁舎で業務が開始。

地下1階、地上3階建てという大きな庁舎から平屋建てとなった庁舎に入るとまだ新しい庁舎の中には木の香りが漂っていました。木の色もあってか、とても明るく感じられる庁舎内はコンパクトにまとまり、すっきりとした印象になっていましたよ。

また、庁舎内に使われている木材は、周南市産のスギやヒノキを使っているのだとか。

偶然ながら、旧鹿野町の

### ●新庁舎外観



町木であるスギが使われていることに驚きました。鹿野の歴史を記した鹿野町誌によると、林業の町である鹿野にふさわしく、里山に広く分布し生活の中で身近に感じられる木であるスギは、すくすくと伸びる姿が「のびゆく鹿野町」のイメージにふさわしい、という理由で、町木として選ばれたそうです。鹿野の地域内にあるマンホールにも、スギがデザインされているんですよ。

また、ヒノキもスギと同じく町木の候補に挙がり、当時はスギ以上の造林面積を持つ木だったようです。どちらの木も、鹿野に縁の深い木なんです。前庭にタイムカプセルが埋められたり、天神祭で走る裸坊たちの控室になったりと、住民に開かれた場所だった旧庁舎。新庁舎も、鹿野が元気になるための拠点として活躍してくれるよう、エールを送りたいと思います!



2月1日から開催!

# 鹿野高原豚×周南米フェア

## 周

南市の資源・特性を生かして「周南市ならではの」「周南市らしさ」「周南市の良さ」といった個性と魅力を持つ産品が認定される「しゅうなんブランド」。

この「しゅうなんブランド」からイチ推しの一品を決定する総選挙で、みごと1位に輝き、「しゅうなんブランド『極』」に認定されたのが有限会社鹿野ファームが生産する鹿野高原豚です。

この鹿野高原豚と、周南産のお米のおいしさを知り、購入して、食べてほしい……そんな思いから、今年も鹿野高原豚×周南米フェアが開催されます。

フェアには「やまぐち食彩店」から2店舗、「周南市地産地消推進店」から7店舗が参加。「やまぐち食彩店」と「周南市地産地消推進店」の認知度向上と利用促進も、このフェアの目的なんですよ。

周南市地産地消推進店を担当する周南市農業振興課からは「このフェアのために各店舗が工夫を凝らして考案した、個性豊かなグルメをぜひ食べてほしいと思います。周南地域に地産地消に取り組む魅力的なお店がたくさんあることや、鹿野高原豚

と周南産のお米のおいしさを、ぜひこの機会に食べて実感してほしいです。あわせて、お肉やお米等、美味しい農林水産物を作ってくれる生産者がいることを知ってほしいと考えられています」とメッセージをいただきました。

おいしい一皿ができるまでにはお店の工夫、食材を作る生産者の努力……さまざまなものがあり、その思いを伝えたい。そんな熱い思いを感じる事ができました。

本フェアの主役のひとつである鹿野高原豚は、赤身部分はジューシーで柔らかく、ほんのりと甘い脂身と合わせて、ただ焼いただけでもとてもおいしいお肉です!

参加店舗のうち、鹿野地域から参加される石船温泉は「ポークステーキセット」を提供されます。アツアツの鉄板で焼かれた豚肉に、タマネギを使ったソースをかけたメニューなんですよ。

温泉に入ってリフレッシュし、おいしく調理されたポークステーキを、周南地域で作られたお米と一緒に堪能する……とてもぜいたくな時間を過ごせそうで、今からワクワクしてきますね。

## 鹿野高原豚×周南米フェア

期間 2月1日(土)・2日(日)・8日(土)・9日(日)・14日(金)・15日(土)・21日(金)・22日(土)

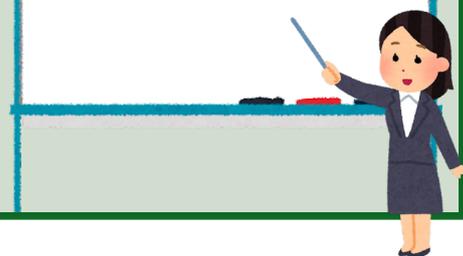
参加店舗ごとにメニューを提供する日は異なります。詳しくは周南市ホームページをご覧ください。



石船温泉はフェアの全日程メニューを提供されます。

●問合せ

石船温泉 ☎ 0834-68-2542



## 長州を支えた「白い和紙」 水道水じゃぬるくてすけない山代和紙

**雪**が降ることも珍しく  
ない、寒い冬になり  
ましたね。今月号の「えー  
る！」では、そんな寒い時  
期にすかれる山代和紙につ  
いてご紹介します。

錦川の上・中流域を占め  
る山代地方は、江戸時代、  
有数の出荷量を誇る和紙の  
産地として知られていまし  
た。鹿野もこの山代地方に  
属し、古くから和紙が生産  
されていたと伝えられてい  
ます。

江戸時代、周防国と長門  
国を領有していた長州藩で  
は、防長三白という産業政  
策が行われていました。こ  
れは「米」「塩」「紙」とい  
う3つの「白」を生産する  
ことを奨励した政策で、山  
代地方で生産する和紙は山  
代和紙と呼ばれ、生産量だ  
けでなく、品質も大変良い  
ものとして有名だったそう  
です。

特に鹿野地域には「紙見  
取所」という紙を検収する  
役所もおかれており、製紙  
が盛んであったことをうか  
がわせます。



それほどに隆盛をきわめ  
た山代和紙ですが、明治時  
代以降に衰退し、戦  
後には生産が一度途絶えて  
しまっていました。その製  
紙を昭和54年に復活させ、  
現代まで伝えているのが、  
周南市鹿野高齢者生産活動  
センターです。

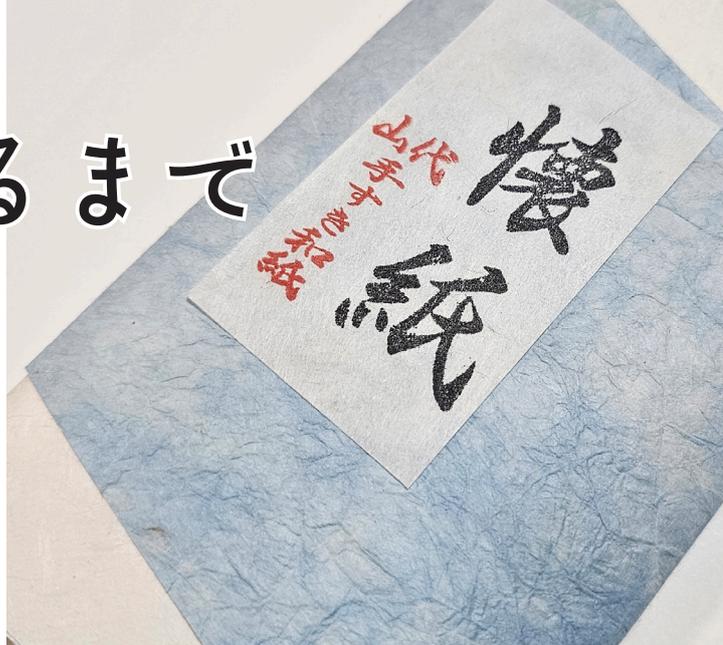
鹿野高齢者生産活動セン  
ターでは、紙すき体験やち  
ぎり絵教室を開催し、その  
技術の一端に触れる活動も  
行っています。ぜひ山代和  
紙に触れ、その感触を手で  
感じてほしいと思います。

高齢者の就業機会の増大  
や、生きがい高め、高齢  
者福祉の増進をはかること  
を目的とし、ワサビやコン  
ニャク、餅などの加工や、  
竹ぼうき、年末年始の飾り  
などが製作・販売されてい

ます。こうした産品ととも  
に、山代和紙も製作されて  
いるんですよ。

問合せ 周南市鹿野高齢者  
生産活動センター  
☎0834-6813640

# 山代和紙ができるまで



山代和紙の生産は、手に息を吹きかけたくなるような、厳しい寒さの冬に限られます。原料のコウゾやミツマタを、トロロアオイという植物から作ったのりて固めて作る山代和紙は、トロロアオイがのりとしての効果を発揮できる低温でなければ、すくことができないからです。

化学的に合成されたのりを使えば一年中紙すきを行うことも可能ですが、あえてのりにトロロアオイを使うからこそ、紙すきを行う時期が限られてくるんですね。

紙すきのためには、気温の低さに加えて、水道水で「ぬるい」というほどの冷たい水が必要だと聞いてとても驚きました。鹿野は、朝にうがいをする、虫歯でもないのに歯がキンキンと痛むほど冷たい水道水が流れる地域です。その水道水に保冷剤を入れ、温度を下げて、やっと紙すきを行うことができます。手がしびれるほど冷たくなった水に、加工したコウゾやミツマタを入れ、箕柙すけたという道具で紙をすいていきます。

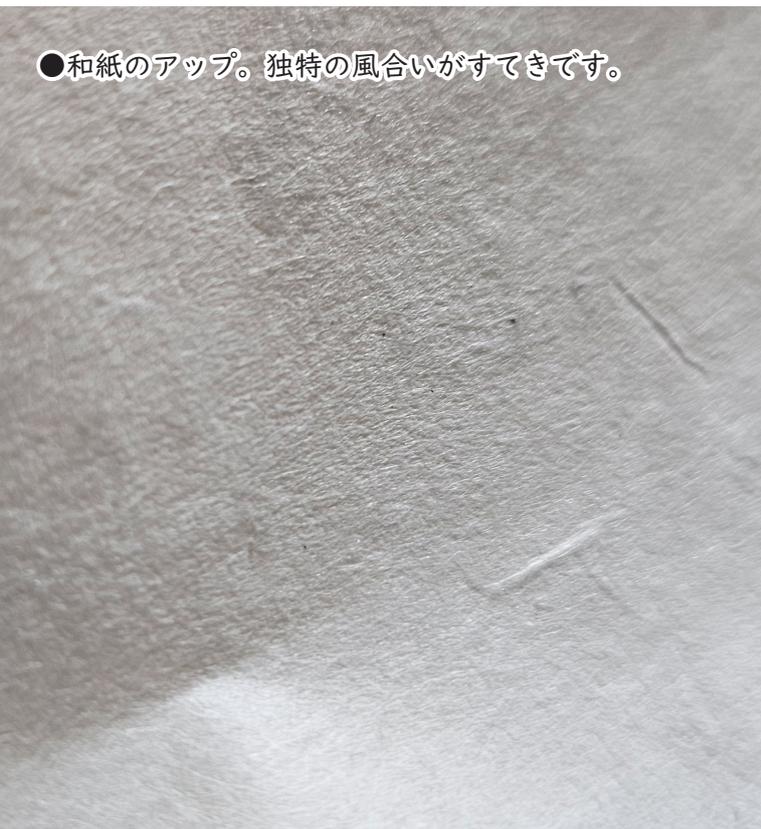
紙すきは、こごえるような水の冷たさに加えて、水と和紙の重みが肩や腕、腰に大きな負担をかける、大変な重労働になるそうです。しかし、このような過酷な環境ですきあげられた山代和紙は、ツヤがあり、とても美しく仕上がるのだそうです。

和紙は、用途に応じて一枚で使ったり、ハガキのような厚みのある加工品を作るために、3枚、5枚と重ねて使ったりします。重ねて使用するときには、厚さにムラが出ないようにすく必要がありますが、そこまで上達するためには、なんと5年はかかるそうです。自宅の障子にすいた和紙を貼り、夜の明かりを透かせてみて、均一かどうかを確認したこともあったのだとか。

まさに、職人の技というのにふさわしいお話を聞かせていただきました。取材に際し、懐紙を購入してみました。薄く水色に染色された和紙で束ねられた懐紙を触ると、つるつるした面とざらざらした面があることに気がきます。機械が大量生産したコピー用紙と比べてみると、厚みも手触りも、和紙独特の感触がありますね。紙面に顔を近づけてみると、かすかに匂うのは紙の原料となった

植物の香りでしょうか。一枚一枚が手作業で生み出される山代和紙だからこそ、すき上がった和紙それぞれに違った風合いを感じることができました。機械で大量生産される紙にはない手触りや香りは、和紙の大きな魅力だと感じます。数百年の時をこえて今に受け継がれ、すかれ続ける山代和紙。鹿野の育んだすきな品がこれからも傳承されていくよう、心からエールを送ります！

●和紙のアップ。独特の風合いがすてきです。



●白い和紙も、染色すると鮮やかな色に！



## 「作る楽しさが、誰かの喜びに」 to-no-te さんが紡ぐ陶芸の世界

### 寒

い冬も終わりに近付  
き、暖かい春の気配  
が感じられるようになって  
きましたね。今月号の「えー  
る!」では、3月2日まで  
渋川の子たぬきのパンギャ  
ラリーで陶器雑貨の個展を  
開催していた、鹿野在住の  
to-no-te さんをご紹介します。  
ます。

本名と「私の手」という  
意味を込めてこの名前で活  
動するto-no-teさんは、  
友人ががの陶芸教室に参加  
していることをきっかけに  
平成28年から陶芸を始めま  
した。

陶芸とは自分を表現する  
方法のひとつだと考え、自  
分が作りたいもの、やって  
みたいことを形にしている  
……そう語るto-no-teさ  
んは、お皿やカップ、オブ  
ジェなど、さまざまな作品  
を制作されています。

ふる里マルシェかのや、  
KANOかくれがマルシェ  
をはじめ、市内のマルシェ  
イベントで作品を販売され  
ています。イベントに立ち  
寄ったときは、to-no-te



さんが参加されていないか  
探してみてくださいね。

to-no-teさんに、陶芸  
に向き合う思いを問うと、  
それは「自分が楽しんで作  
ることなのだ」と語ります。  
「自分が楽しんで作るから  
こそ、誰かに届くものだと  
思います。私の手で作った  
ものを、誰かが気に入って  
くれることに、嬉しさを感じ  
ます」

まずは自分が楽しむこと  
を忘れず、陶芸に向き合う。  
その思いがあるからこそ

誰かの喜びにつながってい  
くんですね。

「陶芸は終わりがなく、果  
てしないものだと思います。  
作り出せる物も無限に  
ありますから、常に新しい  
ものに挑戦できます。かの  
陶芸教室をはじめ、さまざ  
まな方のおかげで活動でき  
ていることに感謝してい  
ます」

陶芸への思いと、周囲へ  
の感謝を語っていたいた  
to-no-teさんの活動に、  
心からエールを送ります!



# 個展を のぞいて



今の自分が作ったものをみてもらいたい……そんなテーマで開催された個展をうかがいました。

子たぬきのパンギャラリーでの個展は、今回が2回目になります。土壁と木でできたあたたかみのあるギャラリーには、to-no-teさんがディスプレイしたお皿やカップ、指輪、お雛様のオブジェなどが並べられています。

同じ土から生み出された陶器は、ギャラリーの雰囲気にもぴったりです！



会場に置かれたメッセージノートを見ると、「あったかい空間に感謝します」「かわいい」「とても素敵でした！」「やっと直接作品を見て触れることができました」「1点1点からあたたかみと愛情が伝わってきます」

……と、たくさんの感想が並んでいました。

個展を訪れた皆さんが、to-no-teさんの作品と雰囲気をととても楽しんでいることを感じました！

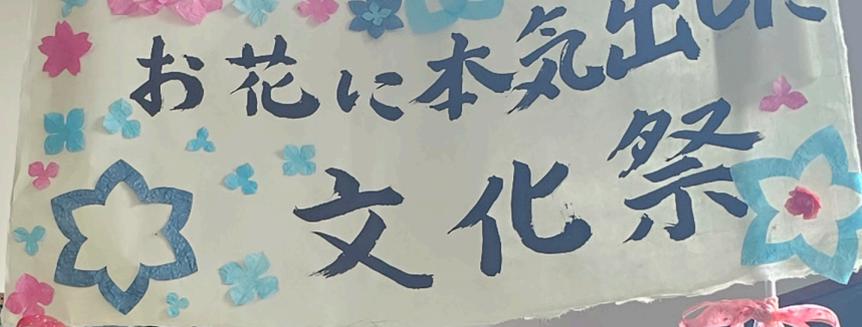
写真撮影をしながら、じっくりと作品を鑑賞しました。

大量生産される製品にはない、手作りで、ひとつとして同じ形のない作品たち。定規で引いたような曲線ではなく、「人の手」が作り出した曲線だからこそ、見ていてあたたかい気持ちになるのだと感じます。

to-no-teさんは、4月以降も、周南地域の各地で出店を予定されています。その時々から、to-no-teさんの思いを感じてみてくださいね。

to-no-teさんの活動は、  
Instagramでも確認する  
ことができます。





## 鹿野の初春に「花」が咲く お花に本気出した文化祭、開催!

**昼**間はとても暖かくな  
り、ついに春がきた、  
といった様子ですね。今月  
号の「えーる!」では、3  
月16日に旧大潮小学校で開  
催された「お花に本気出し  
た文化祭」の様子をご紹介  
します。

このイベントは、冬季を  
除き毎月開催される、KAN  
Oかくれがマルシェ内イ  
ベントとして開催されまし  
た。花をテーマにしたこの  
文化祭を開催した思いを、  
実行委員の荒木萌さんにか  
がいました。

周南市内在住の荒木さん  
が鹿野を訪れるようになって  
約2年。関係している団  
体が鹿野の古民家を使って  
活動していることがご縁に  
なったそうです。

介護福祉士として働くか  
たわら、絵手紙ボランティア  
などの活動をされている  
荒木さんは、昨年、旧大潮  
小学校で開催された「大人  
が本気出した文化祭」にも  
参加。鹿野の中で、さまざま  
なご縁に恵まれました、  
と語ります。

そんな中、てんぐ巢病の  
周知活動などを進める団体  
「さくらの守人」を知り、  
その活動をみんなに知って  
ほしいという思いから「お  
花に本気出した文化祭」の  
企画がスタートしました。

「これまでいろいろな人に  
助けられてきましたし、お  
世話になった人への恩返し  
と、出店を考えているけれ  
どもその場所が見つからな  
い人を助ける、恩送りがで  
きたらと思います」と、思  
いを語ります。



「ラテン語で『カルペ・デイ  
エム』という言葉がありま  
す。『今日と言う日の花を  
摘め』という意味の言葉な  
のですが、仕事の中でも利  
用者様の『今日』という花  
を摘み、たくさんの思い出  
を作りたいと考えていま  
す。同じように、このイベ  
ントに関わった皆さんの一  
日一日が、すてきな思い出  
になればと思います」

荒木さんの今後の活動に  
心からエールをお送りしま  
す!

「自分の好きな服を着ることのできる場所を作りたい」という思いから活動する「黒猫のクローゼット」のファッションショーがステージで行われました。



会場では、さまざまな団体が出店。こちらは、鹿野で個展を開かれたことがある、マエサキマユさんの作品たちです。



地元の「大潮田舎の店」は、イベント限定で、いなり寿司と桜餅を販売されていました！ どちらもとてもおいしかったですよ。



## 「お花に本気出した文化祭」 開催風景

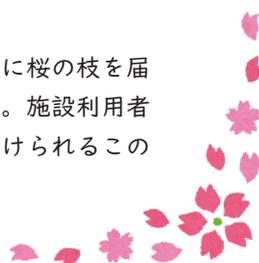
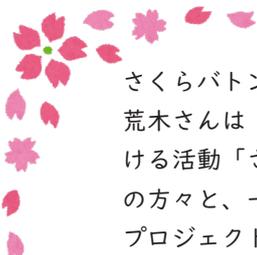


会場の各所には、鹿野の特産品である手すき和紙「山代和紙」を使った造花や装飾が施されていました。和紙のやさしい風合いが、木造の会場によくマッチしています。



さくらバトンプロジェクト、進行中！

荒木さんは「さくらの守人」とも協力しつつ、山口県内の介護施設に桜の枝を届ける活動「さくらバトンプロジェクト」を進めていらっしゃいます。施設利用者の方々と、一緒に桜が咲くのを見守ってほしい、という気持ちで続けられるこのプロジェクトでも、県内に「花」が広がっているんですよ。



## 星が見つないだ縁 “星空案内人” 鴨瀬克己さんの物語

**日** 中は日差しも暖かく  
いいよ春らしい気  
候になってきましたね。今  
月号の「えーる!」では、  
渋川に移住されたカメラマ  
ン・鴨瀬克己さんを紹介  
します。

鴨瀬さんは下関市生まれ  
の下松市育ち。東京で約20  
年を過ごし、42歳の頃に下  
松に戻ってからは、下松市  
の小学校で星空観測会など  
を開催されています。

子どもの頃から光学機械  
に触れることが好きだった  
鴨瀬さんは、鉄道など、さ  
まざまなものを撮影されて  
いました。星との出会いは  
中学生の頃で、天体望遠鏡  
で木星を見たことをきっか

けに、天体の世界に魅了さ  
れていきました。昨年12月  
には星空案内人資格認定制  
度運営機構が認定する「星  
空案内人」の資格を、望遠  
鏡メーカーが開催する講座  
にて取得されています。

カメラマンとして、星だ  
けでなく昆虫や花、猫、人  
物など、さまざまな被写体  
を撮影する鴨瀬さんは「写

真を撮るといことは、神  
仏との対話であると感じて  
います。『自分が撮る』の  
ではなく『神様が撮りなさ  
い』と言っているのだと考  
えています」と、写真への  
思いを語ります。

鹿野に移住した理由につ  
いて「星がきれいに見える  
ところに引越したいと考  
えていたとき、渋川のこと  
を知りました。自宅周辺は  
夜になるとまっくらになり  
ますから、星の観測にとて  
も適した環境です」と語る  
鴨瀬さん。自然豊かな鹿野  
は、夜の星空も大変すてき  
な場所なのだ、改めて感  
じることができました。

鴨瀬さんは、自宅に設置  
した天体ドームを使い、天  
体観測会を行っています。  
澄んだ空気の下で星を見て  
みたい、そう思った方は、  
ぜひ、鴨瀬さんの設置した  
「鹿野渋川天文台」を訪れ  
てみてくださいね。

さまざまな被写体と向き  
合う鴨瀬さん。これからの  
活動に、心からエールを送  
ります!



鹿野渋川天文台は金・土曜開催です

事前にメールで問い合わせのうえ、お越しください。  
鹿野渋川天文台は、鴨瀬さんデザインの「かのこちゃん」が目印です。渋川の星空を、ぜひ楽しんでくださいね。

メールアドレス [kanosibukawatmd@gmail.com](mailto:kanosibukawatmd@gmail.com)

SNSでも鴨瀬さんの写真を見ることが出来ますよ。



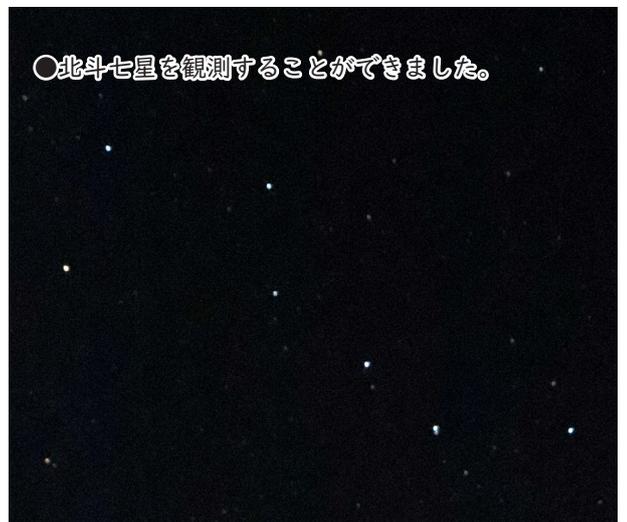
# コアプラザかので星空観望会！



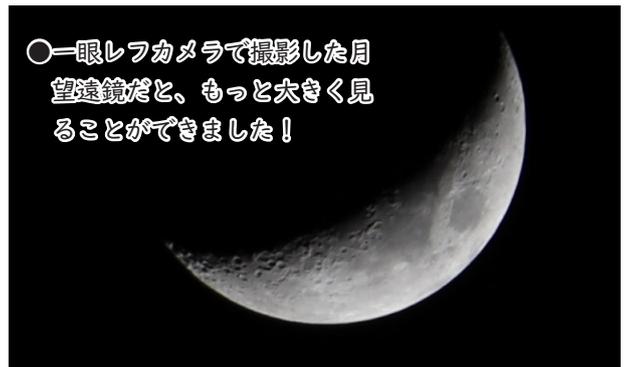
コアプラザかので実施される星空観望会は、毎月第1金曜日、19時から開催です。会場には、この看板が設置されますよ。

時期により開催時刻が前後したり、天候によって開催が見合わされたりするため、時間や実施の有無は、コアプラザかの（0834-68-2094）にお問い合わせください。

○北斗七星を観測することができました。



○一眼レフカメラで撮影した月望遠鏡だと、もっと大きく見ることができました！



5月2日、コアプラザかので行われた星空観望会には、寒さの強いなか、10人を超える方が参加されていきました。  
鴨瀬さんの解説とともに夜空を見上げると、春の大曲線や北斗七星などを見つけることができ、参加された皆さんも歓声をあげていました。

望遠鏡をのぞくと、月面のクレイターまではっきりと見ることができ、とても見ごたえがありましたよ。  
星が輝く夜空を見上げてみると、ずっとこうして見ていたい、そんな気分になりました。ゆっくり空を見上げると、とても癒やされそうです。

市街地は夜でも電気の光が灯り、どこかが明るくて、一面まっくらではないと感じます。改めて、鹿野の自然の豊かさを感じることもできました。  
鹿野の夜空を見上げ、星の話に耳を傾けてみる……なんだかとても、ゼいたく時間だな、と思います。

令和7年度

# 鹿野

# 星空

# 観望会

# 開催中

かのこちゃん

A vertical banner for the stargazing event. It features the text '令和7年度 鹿野 星空 観望会 開催中' in large, bold characters. At the bottom, there is a small illustration of a girl character with green hair and glasses, wearing a blue school uniform, with the name 'かのこちゃん' written below her.



## 半世紀以上の歴史に幕 まるごとペインティングアートで贈る 感謝の気持ち

**史** 上最短とも言われる  
梅雨が明け、真夏の

ような暑さが続いています  
ね。今月号の「えーる！」  
では、6月15日に開催され  
た「まるごとペインティン  
グアート」の様子をご紹介します。

イベントの舞台になった  
のは、昭和46年に鹿野町役  
場として建築され、合併後  
は周南市役所鹿野総合支所  
として地域を見守ってきた  
旧庁舎です。

解体が決まった今、「最  
後に何かできれば」という  
思いから、地元住民で構成  
される鹿野地域活性化研究  
会と、周南市の主催で行わ  
れました。

外壁や室内には、5月下  
旬から少しずつ絵が描かれ  
はじめ、イベント当日には  
会場を訪れた地域の子ども  
たちが、手形やゲームの  
キャラクター、鹿野にちな  
んだ動物や風景など、思い  
思いのイラストで旧庁舎を  
彩っていきました。

当日の朝は、曇り空のス  
タートとなりましたが、や



●「ありがとう」の言葉とともに  
四季をイメージした色紙で飾られた窓

がて青空が顔をのぞかせ、  
会場には子どもたちの声や  
かつての思い出を語り合う  
声の間こえてきます。

自分にとっては、旧庁舎  
は「生まれた時からそこに  
あった」存在です。すでに  
旧庁舎は解体が決定し、工  
事に供えて敷地内への立ち  
入りは禁止されています。

しかしながら、こうして  
多くの人が集まり、絵や寄  
せ書きという形で別れの思  
いを寄せたことは、忘れが  
たい記憶となりました。

もう、二度と同じように  
写真に収めることはできな  
い……そう思うと、これま  
ではなんとも思わなかった  
景色でさえ、とても貴重な  
ものに思えて、何度もカメ  
ラのシャッターを切ってい  
ました。

記念写真に並んだ笑顔の  
一人ひとりが、旧庁舎に感  
謝の気持ちを込めて見送っ  
た一日。50年以上にわたり  
鹿野を見守ってくれた建物  
に、心からのエールを送り  
たいと思います!



# 旧庁舎を飾る イラストと 寄せ書き



旧庁舎外壁には地域の方が書いた力強い書を囲むように描かれた手形やイラスト、窓には桜をイメージした紙に、感謝の思いを込めたメッセージが寄せられています。

庁舎内に入れば、総合支所長室を鹿野こども園の園児たちによる川をイメージした手形アートが彩り、床面にもたくさんのイラストが描かれています。

庁舎裏の駐車場では、風船や水鉄砲、バケツを使った大胆なペイントも行われ、旧庁舎の建物全体が鮮やかに染め上げられました。

まさに旧庁舎を「まるごと」アートで染め上げた一日。きっと、たくさんの人の記憶に残る時間になったと思います！



## 太鼓と口説き、広がる笑顔 地域でつくる鹿野地区盆踊り

空がすっかり暗くなった頃、会場につるされた提灯の明かりが輝き、踊りが一度休憩になったと思うと、今度は耳なじみのある鹿野

音がすっきり暗くなった頃、会場につるされた提灯の明かりが輝き、踊りが一度休憩になったと思うと、今度は耳なじみのある鹿野



音がすっきり暗くなった頃、会場につるされた提灯の明かりが輝き、踊りが一度休憩になったと思うと、今度は耳なじみのある鹿野

●会場では、飲食ブースと座るためのテーブルが準備されていました。



# 会場風景

●盆踊り前に、響き始める和太鼓



盆踊りの源流は、平安時代の念仏踊りにあると言われて  
います。念仏踊りは、時代の  
流れとともに各地で独特なも  
のが作られはじめ、多くの人  
に踊り継がれてきたと言われ  
ています。  
鹿野では、盆踊りは元々新  
仏のあった家の前で踊られて  
いたものが、しだいに地域の  
広場で行われるようになり、  
地域のレクリエーション的な  
意味合いを帯びてきた、と伝  
えられています。  
自分が子どもの頃には、仮  
装盆踊りとして実施されてい  
たように記憶しています。盆  
踊りが、時代に沿った形にな  
りながら、これからも続いて  
ほしいと思います。

○盆踊り後のお楽しみ抽選会



## 願い輝く秋の夜 清流通り灯ろう流し

朝晩の冷え込みもしだいに厳しくなり、秋らしい気候になってきましたね。今月号から少しだけリニューアルし、横書き中心のレイアウトに変更します。新レイアウト初の「えーる!」では、10月12日に開催された「清流通り灯ろう流し」をご紹介します。この催しは、新型コロナウイルス感染症がまん延していた時期に始まりました。当時は「コロナが終わりますように」「コロナが終わったら旅行に行きたい」といった、コロナに関する願い事が多く見られましたが、今年の灯ろうには「家族が幸せになりますように」「争いのない世の中になりますように」といったもののほか、願い事だけでなく、すてきなイラストが描かれた灯ろうなど、さまざまな思いが込められていました。

会場は、漢陽寺の裏山に掘り抜かれた潮音洞からの清流が流れる「清流通り」。まだ空も明るい17時30分頃には、すでに多くの人が集まり、池に浮かぶ灯ろうを眺めていました。お経が唱えられ、ゆっくりと水路に流されていく灯ろうたち。周囲がしだいに暗くなるにつれて、いくつもの灯が水面に揺らめく様子は、写真に収めるのがもったいないほど美しく、思わず目に焼き付けておきたいと感じました。



流れ着いた灯ろうは、周南市役所鹿野総合支所旧庁舎そばの弾正系桜の下で回収され、スタッフだけでなく見学に訪れた皆さんの手でも、二所山田神社の参道へと運ばれました。宮司さんによる祝詞の奏上の後、龍雲寺の駐車場でお焚き上げが行われ、静かに夜の幕が下りました。

たくさんの願いが集まり、参加者も進行に加わりながら無事に終えた灯ろう流し。多くの人の思いと手で作られるこの行事が、これからも続いていくことを願って、心からエールを送ります!

10月5日(日)

## 第25回わんぱくフェスタ

# 鹿野の秋を彩る イベントたち



せせらぎ・豊鹿里パークで行われた「わんぱくフェスタ」では川釣りや丸太切り、マラソン大会などが行われ、秋空の下、子どもたちの歓声が響きました。

お肉と野菜を楽しめる「カントリー焼き」をはじめ、地域の皆さんによるおいしい食事の魅力のひとつです。

10月12日(日)

## アサギマダラ飛来

10月には、遠く台湾まで南下するアサギマダラを鹿野の町なかで見かけることができます。二所山田神社前に植えられたフジバカマのまわりをふわふわと舞うあさぎ色のチョウは必見ですよ。



10月3日(金)～12日(日)

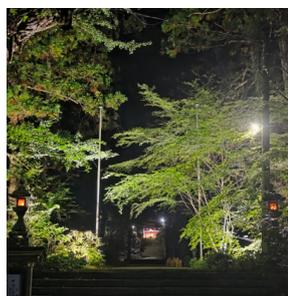
## 第3回周南地域自慢！鹿野高原豚×周南なすフェア

鹿野の特産品「鹿野高原豚」と、周南地域で作られるナスを組み合わせた料理を提供するフェアが開催されました。参加店舗のひとつである石船温泉では「冷やし茄子ソーメン～豚しゃぶ添え～」が提供されました。まるでソーメンのように細く切られ、片栗粉でのど越しをよくしたナスと、しめられてもなお柔らかさを感じられる豚しゃぶが、暑さの残る10月の昼間にぴったりの一品でした。



11月は

## かの' n こと清流Fes.～光の静寂・神やどる杜～



11月14日～30日の毎週金～日曜日に、プロジェクトマッピング&ライトアップイベント「かの' n こと清流Fes.」が開催されます。2回目となる今年は二所山田神社を会場に実施されます。

SNSでも情報を発信しています。右の二次元コードからご覧ください。



## 鹿野の秋の夜、再び輝く。 鎮守の杜を照らす、かの' nこと清流Fes.

朝晩の冷え込みも厳しく、いつ雪が降っても不思議ではない季節になってきましたね。今月号の「えーる!」では、11月14日から30日までの週末に開催された「かの' nこと清流Fes.」の静寂・神やどる杜の様子をご紹介します。

プロジェクションマップとライトアップで鹿野の夜を彩るこのイベントは、昨年引き続き2回目の開催。今回は、二所山田神社をメイン会場として実施されました。

駐車場と、キッチンカー、会場への入口を兼ねる漢陽寺に到着し、入場料を支払って清流通りへ足を踏み入れると、漢陽寺横の白壁に映し出された映像や、ライトアップされたモミジが迎えてくれます。メイン会場に着いていないのに、ワクワクしてくる光景でした。

清流通りは約600メートルの遊歩道ですが、入口からしばらくは写真撮影や移り変わる映像に見入って、気づけば10分近く、足を止めていました。

鹿野の夜はしんと冷え込み、すっかり防寒をしておきたい気候でしたが通りの始まりから心が高鳴る体験が続きます。

10月に灯ろう流しが行われた池では、噴水が上がり水をイメージした映像が地面に投影されていました。

並木には色とりどりのライトが当てられ、昼とはまったく違う幻想的な雰囲気が広がります。

そして到着した、本イベントのメイン会場である二所山田神社。

参道を囲む鎮守の杜は

ライトに包まれ、石柱や石段には映像が映し出されます。

境内では、神社をスクリーンに見立てたプロジェクションマップが行われ、暗闇の中に浮かび上がる光の映像は、昨年、漢陽寺を会場にした第1回とはまた違った印象を与えてくれました。

多くのスタッフの支えにより、寒さにもかかわらず、多くの人でにぎわったこのイベントは、2回目となる今年も、大盛況のうちに幕を閉じました。





## ライトアップと 漢陽寺夜間拝観

清流通りから二所山田神社までの数百メートルは、まるで別世界のようにライトアップされていました。紅葉を思わせる赤や、日中よりも深みを増した緑。二所山田神社では、時間によりライトが明滅し、木々を照らす色が次々と変わる演出も楽しめました。普段から見慣れた参道も、足を止めて撮影したくなるほど美しく、肉眼でも移ろいゆく色彩をじっくり味わうことができました。

また、同時開催イベントとして漢陽寺では夜間拝観が行われ、国の登録記念物である六庭園もライトアップされていました。光によって砂紋に影が生まれ、昼間とは異なる静けさの中で感じる特別な雰囲気。プロジェクションマッピングが光輝くはなやかなイベントであるのに対し、漢陽寺夜間拝観は、しんとした庭を静かに影が彩るイベントであったと感じます。

鹿野の夜を楽しむこのイベントは、いつもの風景に新しい魅力を見せてくれます。昼間はもちろん、夜だからこそ味わえる楽しみがあるのだと改めて感じられる時間でした。

多くのスタッフの支えにより、寒さにもかかわらず多くの人でにぎわったこのイベント。2回目となる今年も、大盛況のうちに幕を閉じました。鹿野の夜に光を添えてくれるこのイベントを支えてくださった皆さんに心からエールを送ります！

